

地域医療連携室だより

No. 19

令和7年5月吉日

～新年度のご挨拶～

魚沼地域の医療・介護関係者の皆さん、小出病院職員の皆さんには、平素より地域連携業務へのご理解・ご協力を賜り誠に有難うございます。

我が国は21世紀に入り、出生数低下による人口減少に加え、多くの分野で人材確保困難に陥り、社会機能の維持に難渋し始めております。魚沼地域の医療・介護分野においても事態は切迫しており早急の対応が求められております。解決への課題と道筋は多様ですが、大別して人材確保のため「働きやすく、働き甲斐のある魚沼」を目指した不断努力と共に業務の効率化があります。

少ない職員数でより効率的な業務を実行するにはどうしたらよいでしょうか。「地域連携に関連した業務の効率化」では、その要に「情報共有」という課題が浮き上がります。日常的業務である入退院カンファレンスでの忙しさの中で、会議が終了すると「情報共有」はできたと一安心していませんか。有効な情報共有のためには、合意した内容の記録『いつ誰がどのように実施するか具体的にした文書』を作り参加職種全員で確認することが望ましいのです。もし関係者でくい違いがあれば早期に修正が必要でしょう。そして実施状況を確認して初めて「情報共有」がうまくできている、と自信をもって評価できるでしょう。遠回りのようでも、こうした丁寧な作業が業務の効率化に資すると思われれます。米ネットとその他の情報伝達との使い分けを含め、組織間コミュニケーションにも着目してみたら如何でしょうか？ご検討頂ければ幸いです。

【地域医療連携部長 林 純一】

～連携室担当紹介～

育児休暇明けで配属となりました。今まで病棟勤務でしたので、大きく環境が変わり、至らない点もあるかと思いますが、ご指導の程よろしくお願いいたします。1日でも早く地域医療にお力添えできるよう精一杯頑張ります。

(矢島花梨)



	連携室看護師	医療ソーシャルワーカー	退院支援専任看護師
2 病棟	涌井 葉子	諸橋 章成	乾 香 (6/1～)
3 病棟	矢島 花梨	橘 洋平	佐藤 佑果
4 病棟		武沢 陽	柳 由布梨
外来担当	細貝 めぐみ	武沢 陽	
病診連携	塩野谷 晶子		

令和6年度 第2回目地域連絡会

～思いに寄り添う支援～ (2事例を受けて)

《グループワークより》

- ・院内でも連携が大切だと感じるようになった。
- ・入院が長期になりそうな場合は、病院や家族からの連絡を待つばかりではなく、自分から情報収集をするようになった。
- ・終末期の意向について、具合が悪くなった時に急に伝えることが出来ないので、日ごろから本人や家族の思い・意向の確認を行っていくことが大切だと思った。
- ・本人のやりたいことがあれば早めに対応し、本人・家族の意向を聞くようになった。
- ・本人の興味があるもの、好きなものを聞き取るようになった。写真も飾るようにしている。
- ・お金がかかってもよい、本人の希望通り自宅で過ごさせたい、が叶えられた。
- ・SSに来て生活空間に近づけるように意識している。
- ・1人にせず、皆のいるところで過ごすことで拘束がなくなる。
- ・スピーチロックについて注意するように気を付けている。
- ・車いすから立ち上がりたい⇒原因を突き止めるようになった。



《アンケートより》

- ・他事業所の考えや取り組みを知ることが有意義。
- ・いろいろな事例やケースがあり、とても勉強になった。
- ・病院側の在宅イメージと在宅側の病院の役割を共有したい。
- ・思いに寄り添う支援をいつも意識しています。
- ・グループワークが6人それぞれの思いがあり時間が足りなかった。
- ・病棟スタッフがもう少し参加した方がいい。
- ・事例検討は効果があるのでよい。
- ・障害分野の事例もあるとよい。
- ・振り返りができてよかった。



開催時期やテーマについて期待したいこと

- ・冬期間ではない方がよい。
- ・医療と地域の意見交換会を希望。
- ・今後の訪問診療や、病院の方向性を地域の施設や関係機関に説明会をしてほしい。

～小出病院からのお知らせ～

令和7年度 地域連絡会

テーマ:「小出病院との連携」について(仮)

開催時期: 令和7年10月(予)

※詳細が決まり次第お知らせいたします。

魚沼市立小出病院

地域医療連携室

TEL:025-792-2111(代表)

FAX:025-793-7069(直通)